

平成25年度 第7回 緩和ケア勉強会のご報告

平成25年度第7回緩和ケア勉強会は、2月6日に開催いたしました。出席人数は39名、うち、院内18名、院外21名でした。

今回は、緩和ケア病棟の地域連携として、緩和ケア病棟看護師より、実際の事例を振り返りお話していただきました。患者さんの想いに寄り添い、在宅療養に向け指導や調整を行っていることや、実際に一緒に過ごすご家族の不安を取り除くための努力、“家に帰りたい”という願いを叶えるために、一つ一つの前にある課題を解決していく過程を発表していただきました。

緩和ケアチームからのお話では、伊藤医師より、「鎮痛薬トピックス」として、最近発売された鎮痛薬、発売予定の鎮痛薬についてお話していただきました。参加者の方から、「新しい薬をわかりやすく学べてよかった」との感想をいただいています。志村理学療法士からは、リハビリが関わり、在宅復帰をされた患者さんの事例を発表していただきました。

今回は、質問がありませんでしたので、参加者の方の感想やご意見を紹介させていただきます。

感想・ご意見

- 病棟看護師さんが患者本人の想いに添って、在宅療養に向けて努力されていることが感じられました。訪問看護師としてもがんばらなければと思いました。
- 患者と家族のお互いの思いを聞き、サポートしていくことの大切さを学びました。
- 「いのちをつなぐ」みなさんの発表を聞きながら、私たちもこの連携スタッフとしてのいのちをつなげるお手伝いをさせていただいているのだと思うとうれしく思いました。
- 事例報告での3名の笑顔の写真が印象的でした。家族の協力や医療スタッフなどの良い人たちに囲まれてのよい看取りができたと思われ、あの笑顔にあらわれているのだと感じました。
- 病棟看護師さんの3つの症例が印象に残りました。『お家に帰りたい』、『家族に迷惑をかけたくない』、『不安がたくさんある』といった様々な葛藤を患者さん本人も家族も抱えていて、その問題点を一つ一つ解決していこうとする姿が素晴らしいと思いました。

勉強会の様子



ご質問・ご意見ありがとうございました。今後もしばしばご意見をお寄せ下さい。

地方独立行政法人 岐阜県立多治見病院
地域医療連携センター FAX: 0572-22-7948
緩和ケア内科 Mail: kanwa@tajimi-hospital.jp